

NPO 法人

# 全日本語りネットワーク

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 11-1 JR 桐生駅構内

桐生市民活動推進センター

(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130-2-114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) http://japankatarinet.jp/

2013. 4. 20 発行

## ニュース

### 紙芝居は語りだ！

野間成之 (石川県金沢市 のまひょうしぎの会)

わたしが荒木文子さんに誘われ紙芝居を持って「全日本語りの祭り」に参加したのは第8回会津若松大会からでした。それ以来毎回参加しています。

倉敷大会では全体会でみなさんに見ていただきました。会場いっぱい笑い声が響き渡りました。その反応のすごさにわたしの方がびっくりしました。

紙芝居は日本独自のおはなしのスタイルです。「絵」を通してお話を進めていきます。赤ちゃんから大人まで楽しんでいただけます。

紙芝居は「芝居」です。ですから文章を読んでいたのでは相手の心に響きません。文章があるのでそれを見てやればいいので、すごく楽です。字が読める人ならだれだってできます。いわゆる「語り」のようにおはなしを覚えてしまわなくてもいいのです。覚えることの重圧、忘れてしまったらどうしようという悩みは紙芝居にはありません。

しかし、しかしです。なまじっか文章が書いてあるばかりにそれを読んでいけばいいという安易な気持ちで紙芝居をやっておられる方も多いです。それでは紙芝居を「芝居」にまで高めることはできません。

「語り」をなさる方と同じように作品の内容を自分のものにしなければなりません。それもただ覚えるだけでなく、一度自分の体を通すことをやらないといけないと思っています。そして、その人らしさを出すということ、会場の人と一緒に楽しむという気持ちを忘れないようにすることが何よりも大切だと、わたしは思っています。

世間では紙芝居を「語り」より下にランク付けをされているような雰囲気を感じます。

「紙芝居には絵があるから想像の邪魔になる」

とおっしゃる方があります。とんでもありません。6年生の女の子の感想に、

「前に絵が一枚あるだけなのに登場人物の行動がとても想像しやすかったです。読み方次第でいろいろなことを表せる紙芝居がとても面白いし、改めて楽しいものなんだと思えました。」

とありました。

わたしは、文章に頼りながらもその作品をいかに自分のものにするか、自分らしさをどう表現するかに力を注いでいます。お客さんのハートをわしづかみにする演じ方をこれからも探っていこうと思っています。やっぱり、紙芝居は語りです！



野間成之 さん